

行政評価局調査のテーマ選定に関する中長期的な考え方（概要）(案)

平成〇年〇月〇日
政策評価審議会

【本考え方を取りまとめた背景】

- 調査テーマを選定する際の基本的な考え方が未確立
- 行政評価局調査の目指す方向性が不明確
といった意見あり

【主な問題点】

- ✓ 調査の意義や必要性、行政課題が分かりづらい
- ✓ 国民や調査対象者の理解・協力が得られづらい
- ✓ 総務省が勧告した事項の改善が進みづらい

【政策評価審議会のアクション】

- 政策評価審議会として、
 - ・ 行政評価局調査の意義
 - ・ 当該調査との関連で行政の現状の認識や問題意識を整理した上で、総務省が調査テーマを選定する際に拠って立つべき基本的な考え方を明示。
 - 4つの視点と、各視点において中長期（3～5年程度）的に
焦点を当てる事項・分野（別紙参照）

【期待される効果】

- ✓ 調査テーマを選定したねらいが明らかになり、解決すべき行政課題にスポットライトが当たる
- ✓ 行政課題にスポットライトが当たることで、国民や調査対象者の理解・協力が得られやすくなる
- ✓ 国民や調査対象者の理解・協力が得られやすくなることで、総務省が勧告した事項の改善が一層進む

※行政評価局調査とは：総務省が、施策や事業を担当する府省とは異なる立場から、実地に調査することで、その課題や問題点を実証的に把握・分析し、対象府省に対して改善方策を提示するもの

四つの視点と各視点において焦点を当てる事項・分野

- 総務省がテーマを検討する際、当面、念頭におくことが望ましい事項・分野は、各視点において以下のとおり

【視点①：経済社会環境の変化に即した見直し】

- 時代の変化に行政が適切に対応できているかとの観点から、
- 現行の施策・事業では対応できない課題への対応
 - 技術進歩に伴う施策・事業の在り方の検証
 - 制度創設から長期にわたって見直しが行われていない制度を運用する施策の検証 など

【視点②：国としての重点政策に係る府省横断的な課題把握】

- 府省横断的な行政課題の増加により政策の全体像の把握が難しくなっているとの観点から、
- 経済成長への貢献
 - 高齢社会への対応
 - 子ども・子育て支援
 - 女性活躍の推進
 - イノベーションの創出
 - 消費者行政の在り方 など

【視点③：公共サービス提供の多様化に対応した国民目線の課題把握】

- 広義の公共サービス提供主体が多様化していることに伴い、国民目線での政策の把握が難しくなっているとの観点から、
- 他の主体が行政よりも先駆的な取組を行っている施策・事業分野
 - 行政だけではサービスを隅々まで行き渡らせることが困難な施策・事業分野 など

【視点④：共通の政策視点を持った総合的なアプローチ】

- 複数の施策・事業について共通する行政上の特性に応じた横串を通すとの観点から、
- 申請手続・調達手続等の国民目線からの見直し
 - 行政のICT化に伴う公共サービスの在り方の変化 など

※ 上記視点①～④に当てはまらないものであっても、

- ・ 国民生活に密着した身近な行政課題や
- ・ 急に発生した国民の関心の高い社会事象に行政の対応が求められているもの など

行政評価局調査を行うことが適当と考えられる場合は、調査を実施することが必要